

教育ビジョン（第5次）検討委員会

「デジタルを活用したこれからの学び」の提案

東京都教育庁総務部教育政策課 情報企画担当課長 江川 徹

課題認識①

▶ ICTの利活用が進んでいる

導入期・拡大期から普及期、浸透期へ

・課題

知識習得型一斉方式（教員の統制下の利用）
の授業スタイルに**限界**



価値創造・課題解決型の授業スタイルにより、子供たちが端末を自由自在に利用する学びを目指す

授業スタイルの転換、授業観・指導観の転換が必要

課題認識②

指導の個別化、学習の個性化

個別最適な学びと協働的な学びを
一体的に充実させ、主体的・対話
的で深い学びを実現する授業改善

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」令和3年1月

具体的な指導法をどのように行うのか

子供たち一人ひとりが、
デジタルを活用して
主体的に学習に取り組む授業を目指す

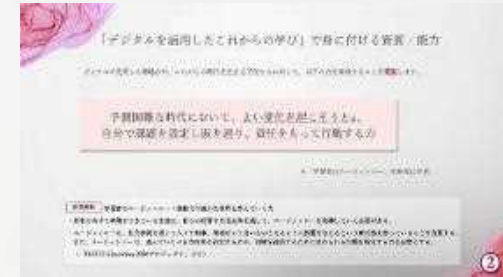
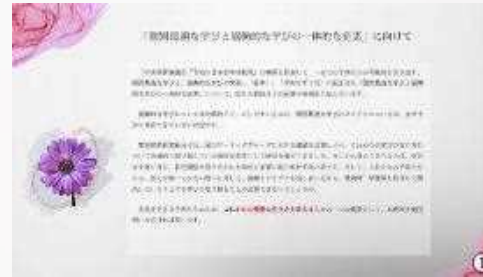


授業設計を変える



都教育委員会は、新たな授業の在り方を
示す指導資料を作成

指導資料「デジタルを活用したこれからの学びの提案」



令和5年4月3日付通知により、指導資料を都立学校及び各区市町村宛て発出

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて

デジタルを活用した これからの学びの提案

これからの学校教育においては、子供が ICT も活用しながら
自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう、
「個に応じた指導」を充実することが必要

中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月26日)より抜粋

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて

「中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（令和3年1月）に記された「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」について、私たち教師はこの言葉の具現化に悩んでいます。

協働的な学びについては比較的イメージしやすいものの、個別最適な学びのスタイルについては、まだ十分に共有できていない状況です。

東京都教育委員会では、国のワーキンググループにおける議論を注視しつつ、これからの学びの在り方について先進的に取り組んでいる地区を参考にして研究を進めてきました。そこから見えてきたものは、学び方を身に付け、自己調整を図りながら主体的に学習に取り組む子供の姿です。そして、これからの子供たちには、答えが唯一ではない問いに対して、協働でアイデアを出し合いながら、最適解・納得解を見付けて解決していこうとする学びに取り組むことが必要ではないでしょうか。

次代を生きる子供たちのため、**これからの授業の在り方を考える**ための一つの提案として、本資料を御活用いただければ幸いです。

「デジタルを活用したこれからの学び」で身に付ける資質・能力

デジタルが充実した環境の中、これからの時代を生きる子供たちに対して、以下の力を育成することを提案します。

予測困難な時代において、よい変化を起こそうと※、
自分で課題を設定し振り返り、責任をもって行動する力

※「学習者のエージェンシー」を参考に作成

参考資料 学習者のエージェンシー：複雑で不確かな世界を歩んでいく力

- ・将来に向けて準備ができていない生徒は、自らの教育や生活全体を通して、エージェンシーを発揮していく必要がある。
- ・エージェンシーは、社会参画を通じて人々や物事、環境がより良いものとなるように影響を与えるという責任感を持っていることを含意する。また、エージェンシーは、進んでいくべき方向性を設定する力や、目標を達成するために求められる行動を特定する力を必要とする。

(「OECD Education 2030プロジェクト」より)

これからの学びにおける授業の在り方を考える ～授業コンセプト～

これからの時代に向けた資質・能力を育成するためには、どのような授業が求められるのでしょうか。

長い間教師は、自分が知識を伝達するという事に慣れてきたため、知識を伝達することを自分の存在価値のように思いがちです。しかし、これからの授業をデザインするにはその**指導観を変える**必要があります。

これまでの教室で見られた**教師が子供を教えるような授業**だけでは、これからの社会を生き抜くための資質・能力を育成することができません。自ら見通し（学習計画）を立て、他者と協働しながら調べ、考え、自分なりの答えを導き出すような**主体的な学び**が求められています。

学びたいという子供の意欲をどのように喚起することがよいのか、教材をどのように準備することがよいのか、などを注意深く検討し、**子供の学びの文脈に寄り沿って支援するという指導観**が求められます。

そのためには、**子供が自ら学び方を選択し自立した学習者になることを目指した授業**となるよう、**教師が指導観を変え、それに基づいた授業デザインを実現**することが重要となるのではないのでしょうか。

これまでの授業

教師が一方的に話し、子供はそれを聞いている

教師が子供の学習配当時間を決める

教師が学び方を細かく指示する

これからの授業

子供が主体的に学習活動をしている

子供が自ら見通し（学習計画）を立てる

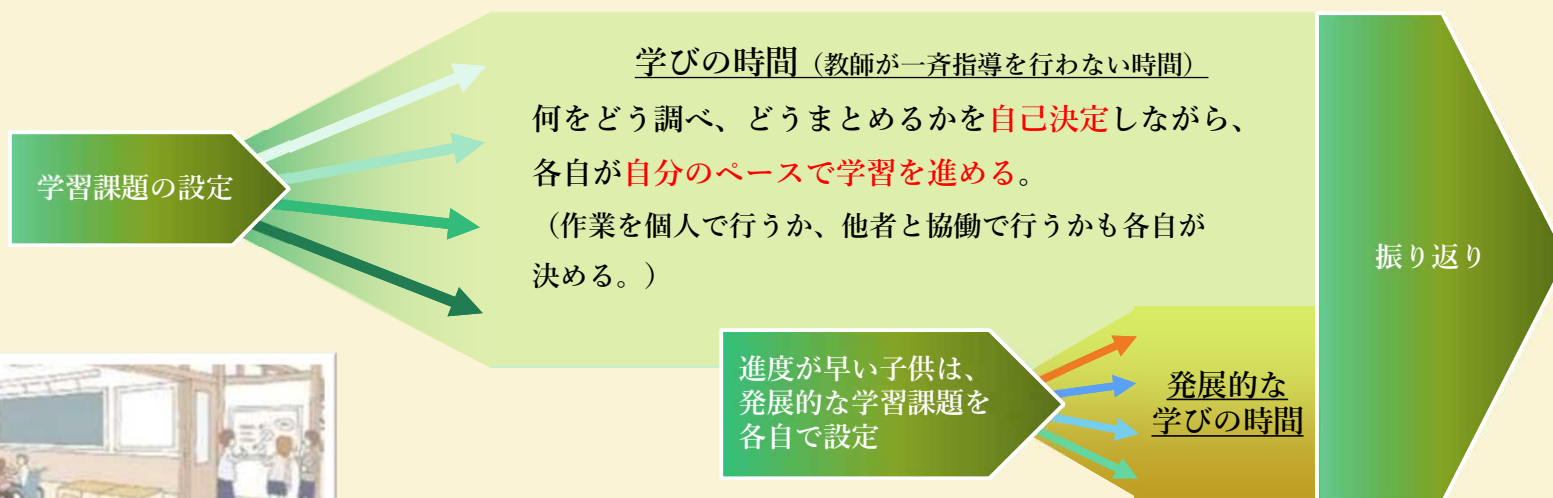
子供が自分で決めた方法で調べ、考える

次のスライドで具体的な授業デザインのイメージを示します。

デジタルを活用したこれからの学び ～授業デザイン例～

子供が自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業デザインの例を示します。

デジタルを活用した新しい学びを実現する授業デザイン（1単位時間当たりの例・単元の場合も同様）



このモデルは、1単位時間の構成だけでなく、数単位時間の単元ごとや、1単位時間の中で細分化するなど、柔軟に対応することができます。
まずは、現在の総授業時間数の2割程度を目標に始めてみませんか。

このような授業を実現するために必要なことは何でしょうか。

子供が自己決定できる授業を行うために必要な要素

デジタルを活用したこれから学びを実現する授業デザインに必要な要素として、以下の三つを示します。



① 学びのプロセス (子供)
Learning **P**rocess

② 思考スキル (子供)
Thinking **S**kills



③ デジタルの活用 (教師・子供)
Digital **U**tilization

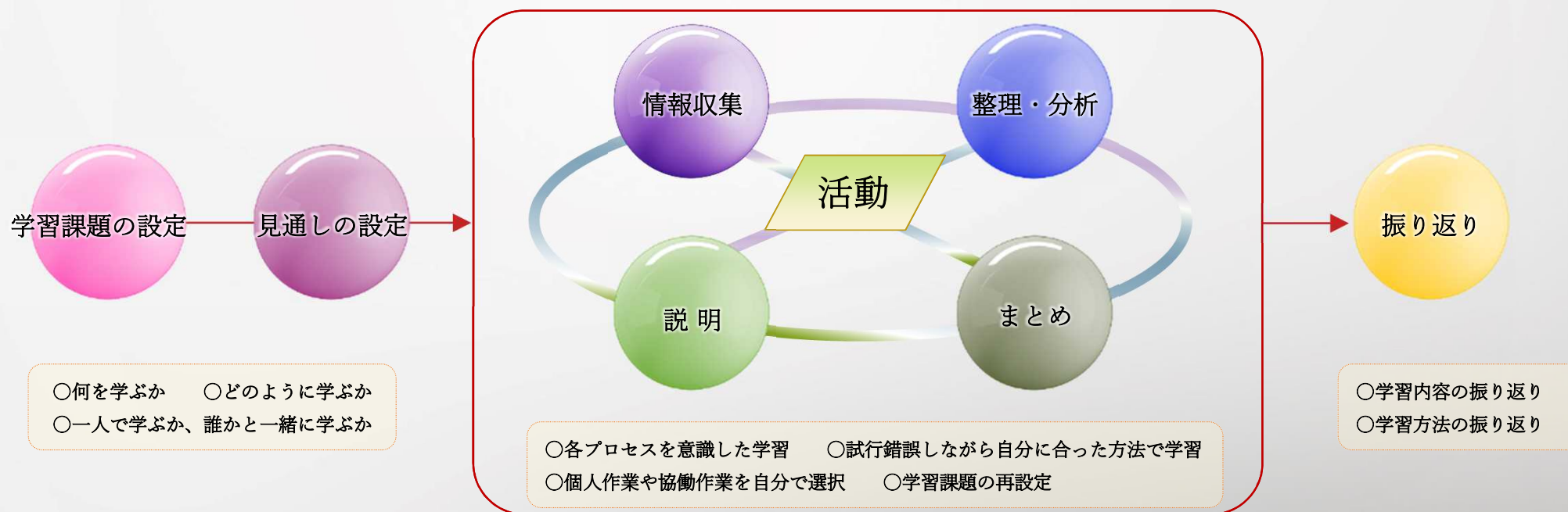


次のページから具体的に説明します。

① 学びのプロセスについて

主体的な学びを行うためには、以下のプロセスを**子供自身が決定**しながら学習を進めることが大切です。学びの過程において、どの場面にいるかを意識し、次のステップに向けて活動できるようにすることが重要です。

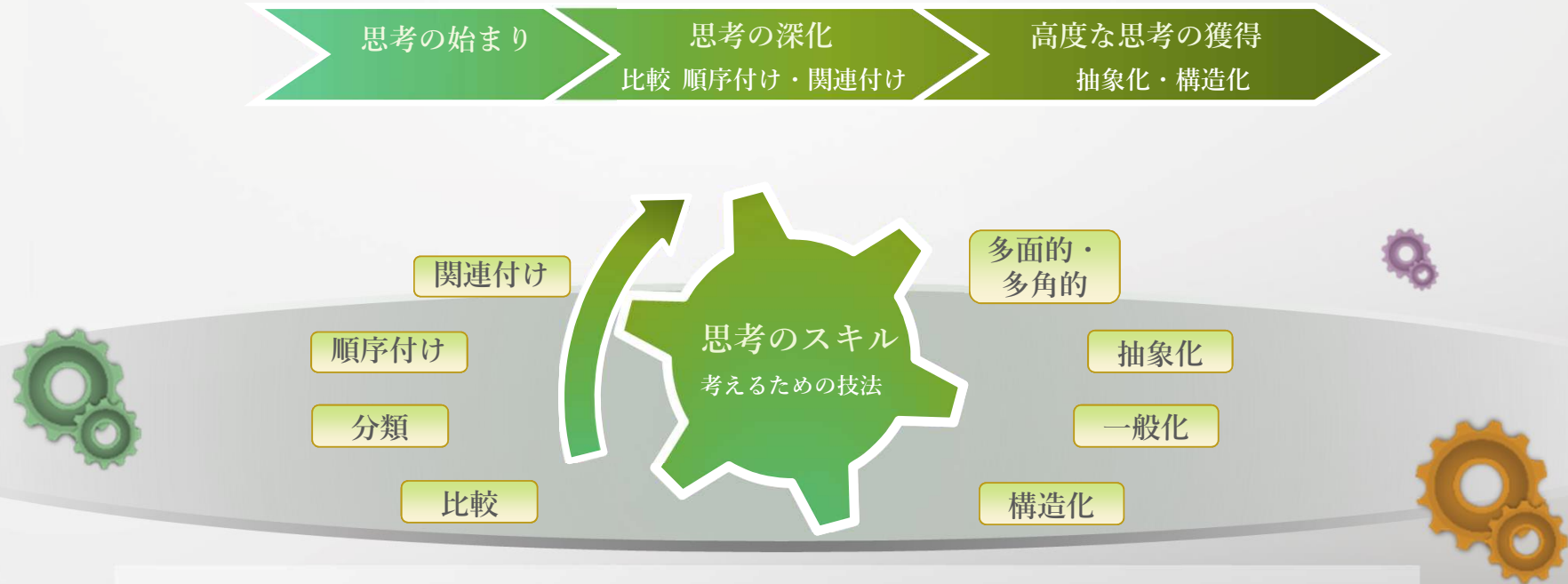
何を学ぶか、どのように学ぶか、子供たち自身が切り開いていくことが求められています。



教師は、子供たちの疑問を引き出すような発問を行い、見通し（学習計画）について確認・助言を行います。さらに、学習課題の設定から振り返りまで、各プロセスの進捗を把握しながら、最後は、自らの学び全体を振り返らせるようにします。振り返りでは、学習の感想を記すのではなく、学習内容及び学習方法を振り返らせるようにします。

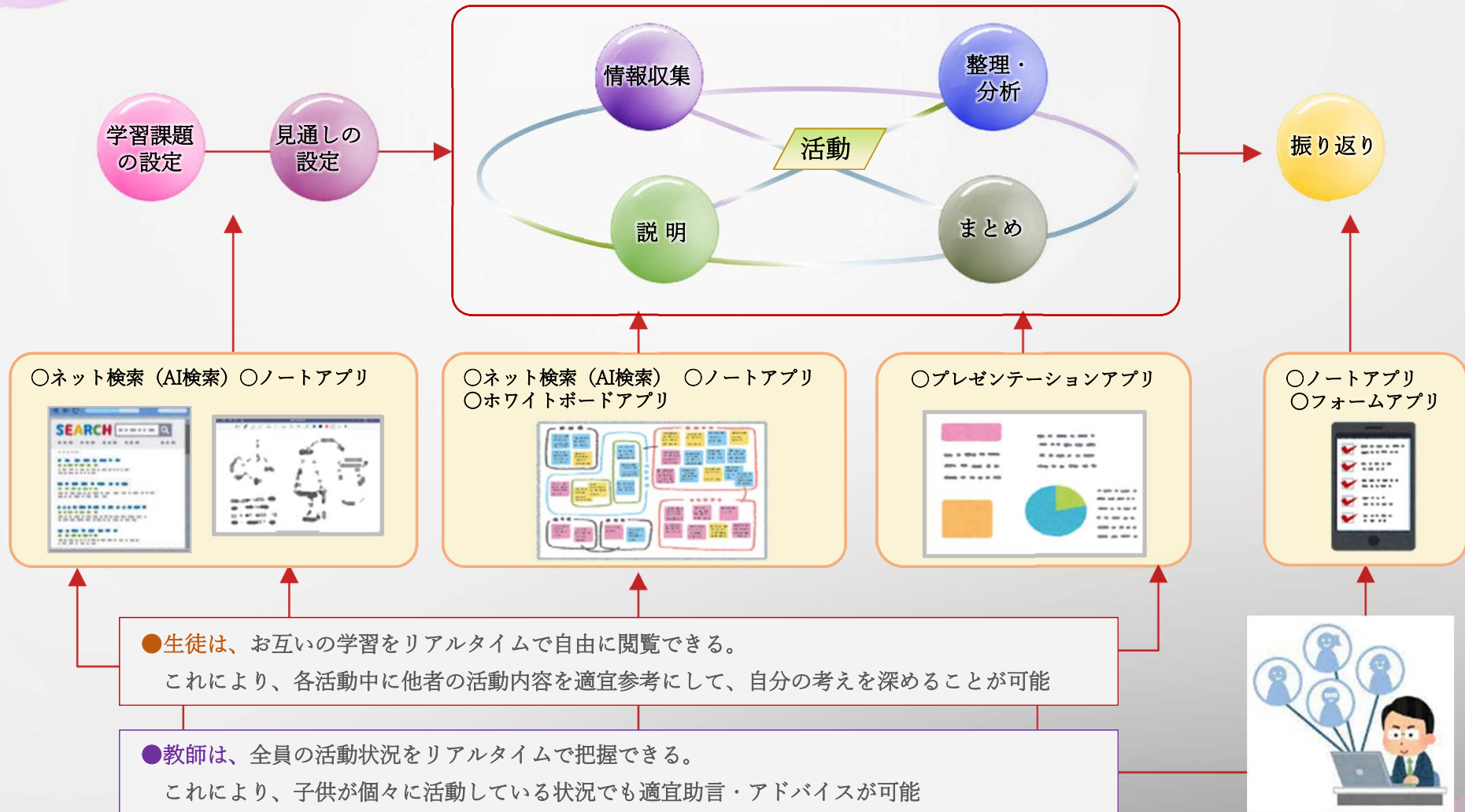
②思考のスキルについて

学びのプロセスにおける「整理・分析」「まとめ」においては、物事を比較・分類することや、多面的・多角的に捉えて考えることが大切です。比較することなどを思考のスキルと呼びます。思考のスキルを身に付けることで、子供は、より多様な関連や様々な性質に着目したり、対象がもつ本質的な共通点や固有の性質に気付いたりすることができます。



思考のスキルを身に付けさせるためには、子供の習熟の状況等を踏まえながら教師が声掛けをしたり、例えば、ベン図などの思考ツールやKJ法的分類法等を用いて可視化する活動を取り入れることで、思考が深まり、協働的な学びをしやすくなります。また、学習の振り返りや指導の改善にも活用できま

③ デジタルの活用について（例）



今後、都教育委員会は、デジタルを活用した
これからの学びについて、さらに研究を進めていきます。